

気仙沼土木復旧・復興だより

第28号

令和2年11月1日発行
宮城県気仙沼土木事務所



6 気仙沼市本吉町大谷地区 国道45号の道路切替を行いました。

海岸防潮堤整備と背後の国道45号を一体的に嵩上げ整備している大谷地区海岸防潮堤整備事業において、令和2年7月22日に事業区間起点側（仙台側）の部分的な道路切替を行いました。
引き続き国道45号の嵩上げ工事および海岸防潮堤工事を行っておりますが、今後も道路切替が予定されておりますので、御不便をお掛け致しますが、通行される際には御協力いただきますようお願い致します。



7 一般県道泊崎半島線「泊崎復興道路」の事業が完了しました。

道路復興事業において整備を進めてまいりました一般県道泊崎半島線「泊崎復興道路」の整備が令和2年6月30日に完了しました。
今回の工事完了に伴い、泊崎復興道路の1.7kmの全区間が供用開始となり、安全で円滑な交通確保が図られるとともに、泊崎半島方面から伊里前地区へのアクセス向上が期待されます。



1 災害復旧事業の進捗状況

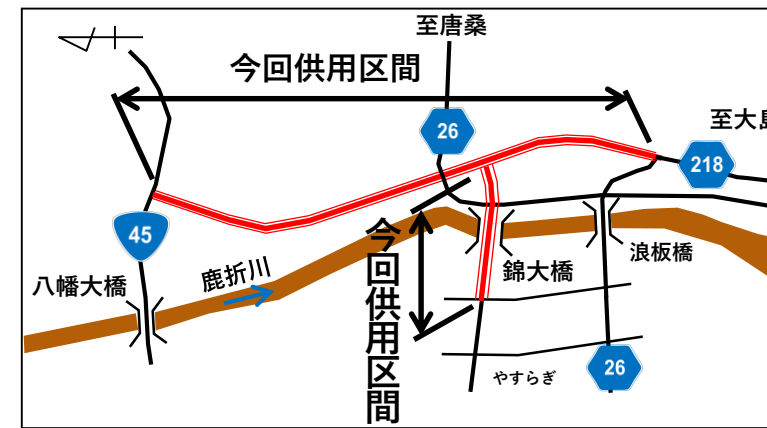
- 災害復旧事業の着手率は、令和2年9月末現在で箇所数ベースで100%、事業費ベースで約93%となっています。
- 道路・橋梁施設については、約95%が完了しています。
- 河川・海岸施設については、約57%が完了しています。
- 港湾施設については、全て完了しました。
- 今後も、地権者の皆様を始めとした関係者の皆様の御協力を頂きながら、早期完了に向けて、復旧事業の着実な進捗を図ってまいります。

◎箇所数ベース (単位:箇所)				◎事業費ベース (単位:億円)					
	全体	事業中	うち完了	完了率	全体	事業中	うち完了	着手率	完了率
道路・橋梁	123	123	117	95.1%	139.3	134.7	129.7	96.7%	93.1%
河川・海岸	53	53	30	56.6%	2,278.2	2,113.0	1,852.5	92.7%	81.3%
港湾	11	11	11	100.0%	90.2	90.2	90.2	100.0%	100.0%
合計	187	187	158	84.5%	2,507.7	2,337.9	2,072.4	93.2%	82.6%

※事業費は、現時点での事業費としている

2 一般県道大島浪板線の一部区間の供用を開始しました。

一般県道大島浪板線の東八幡前～浪板区間の工事が完了し、令和2年10月5日（月曜日）11時に供用を開始しました。今回の開通により、国道45号と大島浪板線が直接接続し、大島方面との通行の利便性が一層高まりました。また、同時に気仙沼市が整備を進めていた都市計画道路鹿折駅浜線の錦大橋も供用開始となり、大島浪板線と接続されました。なお、これに伴い交通規制の内容が変更となった交差点がありますので、通行の際はご注意ください。今後も、残る大島磯草～浦の浜区間の供用開始に向けて整備を進めてまいります。



3 令和元年度全建賞を受賞しました。

令和元年度全建賞を「大島架橋事業」および「中島地区海岸災害復旧事業」の2事業が受賞しました。

大島架橋事業は架設に起重機船による大ブロック架設工法により無事架設した点や塩害対策のための三重防食の点が評価されました。

中島地区海岸では景観、環境、利用などへ配慮して完成させた点や地震の伝承や地域活性化に取り組んでいる点などが評価されました。



※お気付きの点やご意見などがありましたら、何なりとご連絡下さい。
※今後とも、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

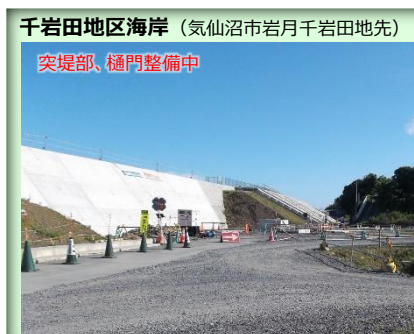
宮城県気仙沼土木事務所 企画担当チーム
〒988-0181
宮城県気仙沼市赤岩杉ノ沢47-6
TEL: 0226-22-2622
Mail: ksdbk@pref.miyagi.lg.jp
ホームページ: <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ks-doboku/>

気仙沼市



4 工事が進む災害復旧箇所の状況

[気仙沼市内の主な工事状況]



東日本大震災からの復旧工事は、現在29箇所を進めています。

河川や海岸では、23箇所盛土へのコンクリート被覆などを進めており、道路は、6箇所橋梁や舗装等を行っています。

4 工事が進む災害復旧箇所の状況

[南三陸町内の主な工事状況]

南三陸町



5 主要地方道気仙沼唐桑線「新面瀬橋」の供用を開始しました。

松崎片浜地内で実施している東日本大震災で被災した面瀬橋災害復旧工事と、その北側で整備していた市の防災集団移転団地から県道気仙沼唐桑線に接続する交差点整備が完了したことから、令和2年6月1日の早朝に、新面瀬橋(しんおもせばし)と、その前後のL=387m区間が供用開始となりました。新しい橋梁は、二級河川面瀬川に架かり、被災した旧橋の約40m下流位置に架替えしており、橋梁幅員がW=11.5mで両側に歩道を設置しています。

